

ApeosPort[®]

リファレンスガイド 付録編

エミュレーションモード、ダイレクトプリント、外部アクセスなどについて記載しています。

- このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

エミュレーション

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、ほかのプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。

エミュレーションモード

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
ESC/P	VP-1000
PC-PR201H	PC-PR201H
PCL	HP-CLJ5500（カラー機）、HP-LJ4200（モノクロ機）
HP-GL	7586B、または DJ750C Plus
HP-GL/2	DJ750C Plus



参照

- それぞれのモードの詳細な内容については、『リファレンスマニュアル』（別売）を参照してください。

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

■ コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。

■ 自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。

■ プロトコル従属

CentreWare Internet Services を使用して、プロトコル（LPD、IPP、Port9100、WSD）ごとにプリント言語を固定化できます。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

モードメニュー画面

ホーム画面の [プリンターモード] で、エミュレーションモードを選択すると、表示されます。



💡 補足

- [メモリー呼び出し]、[メモリー登録 / 削除]、[立ち上げメモリー]は、ESC/P、HP-GL/2、PC-PR201H に表示されます。
- CentreWare Internet Services でも同様に設定できます。

■ メモリー呼び出し

メモリーに登録した設定を呼び出します。

■ 詳細確認 / 変更

[項目番号] に機能の項目番号を入力すると、現在の設定値が表示されます。

設定値を変更するには、[変更値] に変更する値を入力し、[決定] をタップします。

📖 参照

- 項目番号は、「設定項目」(P.14) を参照してください。

■ メモリー登録 / 削除

現在の設定項目の内容を [ユーザー登録メモリー] に登録したり、登録済みのメモリーを削除したりします。

■ 立ち上げメモリー

起動したときの初期値を設定します。

使用できるフォント

[設定] > [機械確認 / レポート] > [レポート / リストの出力] > [プリンター設定] で、[フォントリスト]、または [PCL フォントリスト] をタップすると、確認できます。

ESC/P、PC-PR201H では、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録され、電源を切っても保持されます。各プリント言語の間で共有はできません。

プリント機能

エミュレーションモード	N アップ	フォーム	バーコード
ART IV	—	64	あり
ESC/P	あり	64	あり
PC-PR201H	あり	64	あり
PCL	—	—	あり
HP-GL、HP-GL/2	—	—	—

💡 補足

- ART IV でストレージありの場合、フォームは 2048 個です。

■ N アップ

2 アップを利用できます。

■ フォーム

定形のフォームを登録し、登録されているフォームをプリントデータに合成してプリントできます。

💡 補足

- フォーム登録数の上限を超えてフォームを登録しようとした場合、またはフォーム用のメモリー容量がいっぱいになった場合、新しいフォームは登録されません。
- フォームの登録については、[設定] > [機械確認 / レポート] > [レポート / リストの出力] > [プリンター設定] > [ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト] で確認してください。

■ バーコード

利用できるバーコード規格は、JAN コード、CODE39、CODABAR、Industrial 2 of 5、Matrix 2 of 5、Interleaved 2 of 5 です。

PCL は、CODE128、カスタマーバーコード、QR コードも利用できます。

コマンドの指定方法は、[設定] > [機械確認 / レポート] > [レポート / リストの出力] > [PCL フォントリスト] で確認できます。

設定メニュー

機械管理者モードにログインして行います。

エミュレーションモード	ポート設定	メモリー設定	フォーム削除
ART IV	あり	あり	あり
ESC/P	あり	あり	あり
PC-PR201H	あり	あり	あり
PCL	あり	—	—
HP-GL、HP-GL/2	あり	あり	—

■ ポート設定

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] をタップすると、ポートが起動/停止します。

ポート名	状態
USB	起動
LPD	起動
SMBクライアント	起動
IPP	起動
Bonjour	起動
Port9100	起動
SNMP	起動
FTPクライアント	起動

- ポートの起動（USB/LPD/IPP/Port9100/WSD）

エミュレーションモードで使用するポートにタップします。

- USB- プリントモード指定

ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここでエミュレーションモードを選択すると、「プリント言語の切り替え」(P.2) で説明している「自動切り替え」は行われません。

💡 補足

- CentreWare Internet Services を使用して、プロトコルごとにプリントモードを指定することもできます。

■ メモリー設定

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定] をタップします。

💡 補足

- ストレージが取り付けられている場合、設定は変更できません。

項目	設定
ART EXフォームメモリー	(ストレージ)
ART IV_ESC/P_201H形式メモリー	(ストレージ)
ART IV1-ユーザー定義用メモリー	32KB
HP-GL/2(3)形式メモリー	(ストレージ)
ジョブチケット用メモリー	0.25MB
受信バッファ-LPD	スプールする
受信バッファ-SMB	(ポート停止)
受信バッファ-IPP	スプールしない

- ART IV ユーザー定義用メモリー

ART IV のユーザー定義で使用するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

📖 参照

- その他の操作については、『リファレンスガイド 操作編』の該当する箇所を参照してください。

■ フォーム削除

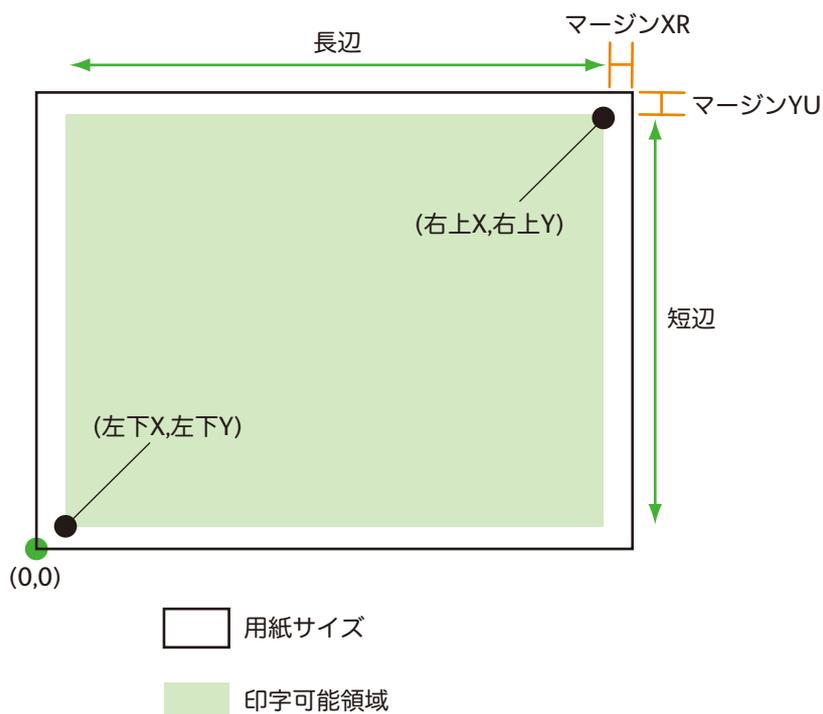
[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [フォーム削除] をタップし、フォームを削除するモードを選択します。



HP-GL、HP-GL/2 エミュレーション固有の事項

印字可能領域

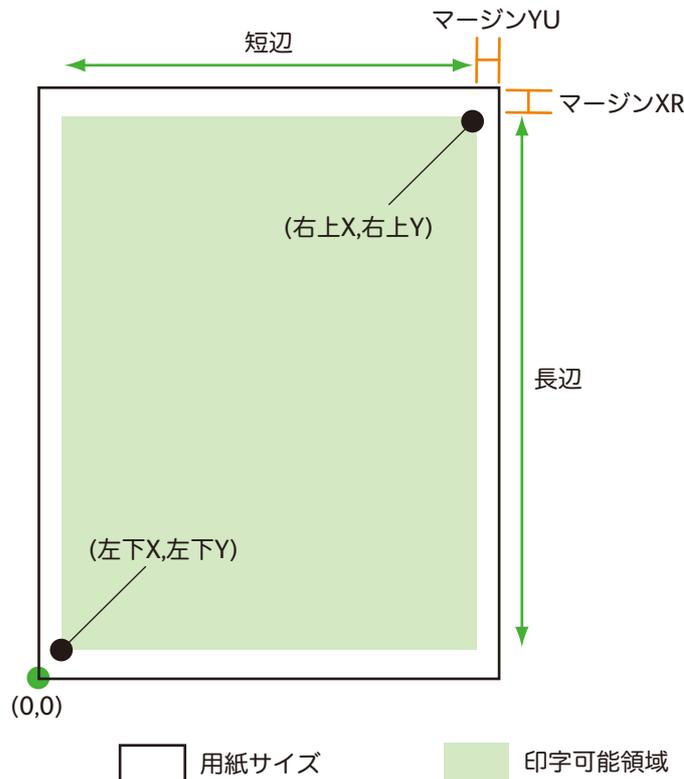
◆ よこ置き



用紙サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印字可能領域		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260

用紙 サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印字可能領域		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
JIS B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
JIS B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

◆たて置き



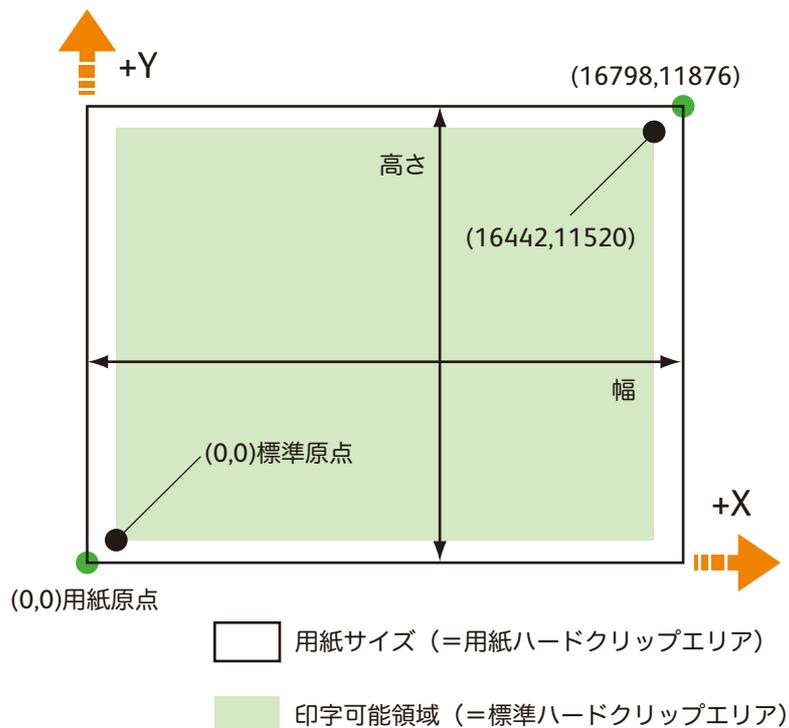
用紙 サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印字可能領域		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	84168	119052	1260	1260	81648	116532	82908	117792	1260	1260
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
JIS B4	72828	103176	1260	1260	70308	100656	71568	101916	1260	1260
JIS B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

ハードクリップ

座標値から決定される領域をハードクリップエリアと呼びます。

ハードクリップエリアは、印字可能領域、または用紙サイズから決定されます。

◆ A3、原点位置が左下のとき



■ 標準

本機の印字可能領域がハードクリップエリアになります。

■ 用紙

用紙と同じサイズがハードクリップエリアになります。

オートレイアウト

原稿サイズ、用紙サイズなど、設定した項目から、自動で印字領域が決定されます。

■ 原稿サイズ

「オート」(初期値) にすると「オートレイアウト」の設定が有効になります。

■ オートレイアウト

「ON」(初期値) にすると、「スケール」、「スケールモード」、「エリア判定モード」、「ペーパーマージン」が有効になります。

■ スケール

描画されるオブジェクト領域が用紙サイズに合うように、印字領域を拡大/縮小します。

■ スケールモード

◆ 用紙サイズ

描画されるオブジェクト領域から原稿サイズが決定されます。決定されるサイズは、A 系列のサイズ (A0 ~ A5 の 6 種類) です。

◆ オブジェクト領域

描画されるオブジェクト領域の原点位置を基準に原稿サイズが決定されます。

■ エリア判定モード

💡 補足

- コマンドがない場合、Adapted でオブジェクト領域が決定されます。

◆ 自動

優先順位が PS > IW > IP > Adapted で、自動的に選択されます。

◆ PS

最初に PS コマンドで指定された領域を含む領域がオブジェクト領域になります。

◆ IW

データ中の最後の IW コマンドで指定された領域がオブジェクト領域になります。

◆ IP

すべての IP コマンドで指定された領域がオブジェクト領域になります。

◆ Adapted

自動でオブジェクト領域が決定されます。

■ ペーパーマージン

余白の設定をします。

■ ペン属性

ハードクリップエリアの境界線を描画するペンの設定をします。

ペンは 16 種類 (No.00 ~ No.15)、設定できます。

◆ ペン幅

「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も縮小します。

線の幅は線を中心から太くなります。

太さが 0.0 mm の場合は、何も描画されません。

💡 補足

- 「書体」が「ストローク」以外の文字には無効です。

◆ ペン終端形状

ペンの終端形状を設定します。

💡 補足

- 「書体」が「ストローク」以外の文字には無効です。

◆ペン接続形状

ペンの線を接続した場合の処理を設定します。

💡 補足

- 「なし」は、処理時間をもっとも短く、確認用に適しています。
- シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定する HPGL コマンドです。
- 文字には無効です。

◆ペンカラー

ペンの色は RGB で指示します。

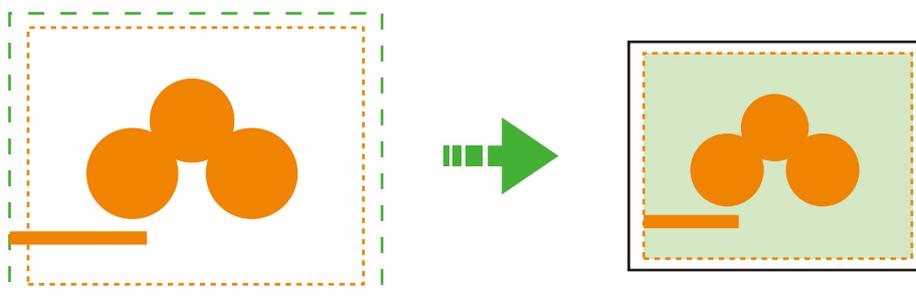
◆ペン濃度

ペンの濃度が設定できます。

■ オートレイアウト時の設定項目組み合わせ例

◆スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON

印字領域内で縮小/拡大されて、プリントされます。

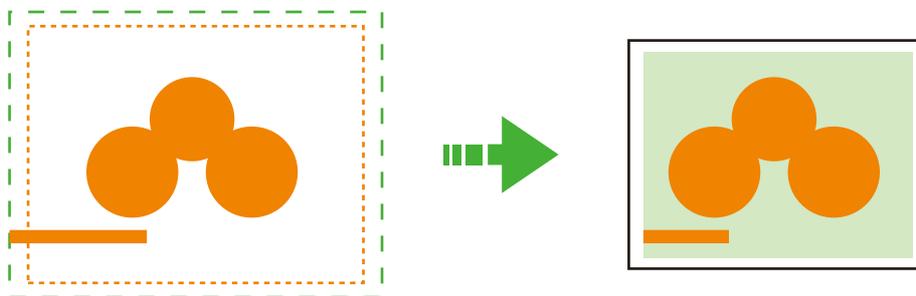


-  用紙サイズ
-  印字可能領域
-  「エリア判定モード」で決定されたオブジェクト領域
-  描画されたオブジェクト領域 (=印字領域)

◆スケールモード：用紙サイズ、スケール：OFF

等倍でプリントされます。

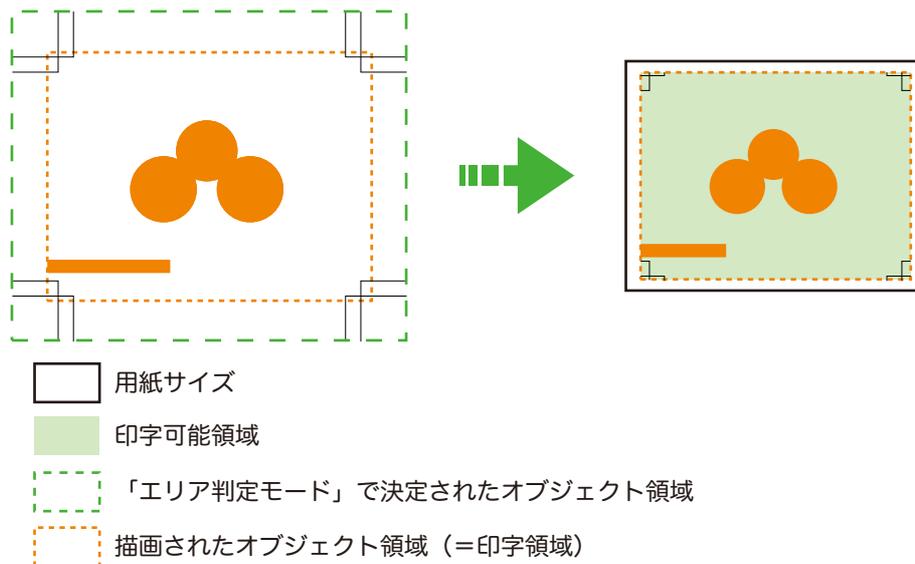
そのため、用紙サイズより大きい部分は印字されません。



-  用紙サイズ
-  印字可能領域
-  「エリア判定モード」で決定されたオブジェクト領域
-  描画されたオブジェクト領域 (=印字領域)

◆スケールモード：オブジェクト領域、スケール：ON

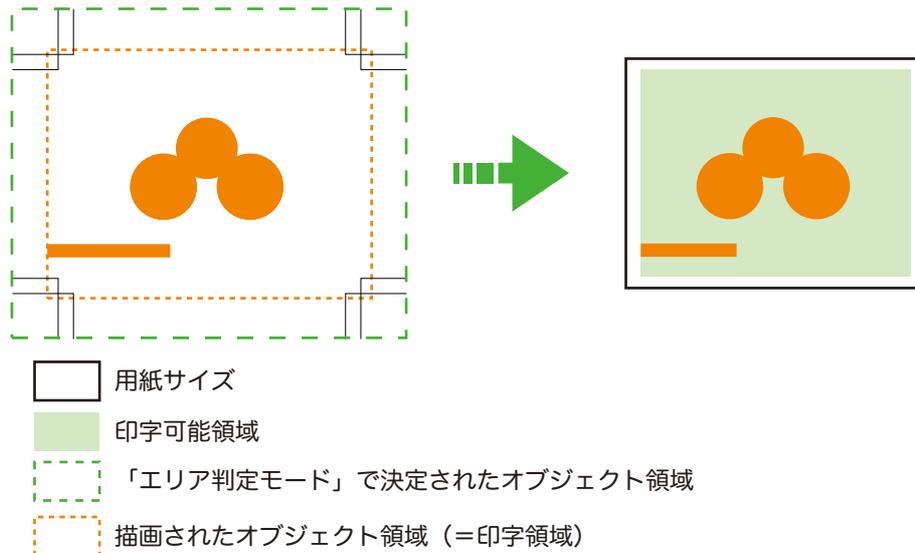
印字領域内で縮小/拡大されて、プリントされます。



◆スケールモード：オブジェクト領域、スケール：OFF

等倍でプリントされます。

そのため、用紙サイズより大きい部分は印字されません。



■ 原稿サイズの決定方法

1. 「エリア判定モード」で決定されたオブジェクト領域に対し、次のどれかで値の大きいものをマージンとして加えます。
 - ・ ページ内で指定された文字の大きさ
 - ・ デフォルトの文字の大きさ
 - ・ 指定されたペン幅の 1/2
2. 「エリア判定モードで決定されたオブジェクト領域」 + 「加わったマージン」 - 「設定したペーパーマージン」が描画されるオブジェクト領域になります。

3. 「スケールモード」が「用紙サイズ」の場合、描画されるオブジェクト領域から原稿サイズが決定されます。
 「スケールモード」が「オブジェクト領域」の場合、描画されるオブジェクト領域の原点位置を基準に原稿サイズが決定されます。

◆判定方法の例

オートレイアウト = ON、原稿サイズ = オート、スケールモード = 用紙サイズ、エリア判定モード = IP、ペーパーマージン = 10 mm で、ペン幅 = 0.1 mm の場合

IN;

IP-8399,-5938,8399,5938;

IW-8399,-5938,8399,5938;

PU;

SP1;

:

:

SPO;

💡 補足

- 文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP、IW で指定しているエリアは A3 です。

• 判定方法

1. IP コマンドで指定されたエリア「-8399,-5938,8399,5938」がオブジェクト領域になります。
2. 文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅は 0.1 mm のため A3 サイズのデフォルト文字サイズの高さ 12 (75 プロッタユニット) のサイズがオブジェクト領域に加わります。
 この時点でのオブジェクト領域： -8474,-6013,8474,6013
3. ペーパーマージン (10 mm) がオブジェクト領域から削除されます。
 この時点でのオブジェクト領域： -8074,-5613,8074,5613
4. 描画されたオブジェクト領域 (= 印字領域) が A4 超 ~ A3 以下のため、原稿サイズは A3 になります。

■ 用紙サイズの決定方法

◆「原稿サイズ」が「オート」、「給紙トレイ」が「自動」の場合

- 「スケールモード」が「用紙サイズ」で、原稿サイズと同じ用紙サイズがトレイにセットされているときは、原稿サイズと同じサイズの用紙サイズ
- 「スケールモード」が「オブジェクト領域」のときは、エリア判定モードで決定されたオブジェクト領域が用紙サイズ

💡 補足

- 同じ用紙サイズがない場合、次のサイズが選ばれます。
 - 最大サイズを上回る：最大サイズ
 - 最小サイズを下回る：最小サイズ
 - 最小 ~ 最大サイズの間：収まるサイズ

■ 縮小率の決定方法

◆「原稿サイズ」が「オート」、「スケールモード」が「用紙サイズ」の場合

描画されるオブジェクト領域と「用紙サイズ」から縮小率が決定されます。また、ハードクリップエリアは「用紙」になります。

- オートレイアウトが「ON」のとき、原稿を用紙の中央に配置します。
- 原点位置が左下、または中央のとき、原稿と用紙の原点を合わせます。
- 縮小率が 22.5 % 未満のとき (A0 → A5 など)、等倍になります。

◆「原稿サイズ」が「オート」、「スケールモード」が「オブジェクト領域」の場合

描画されるオブジェクト領域の原点位置と用紙サイズから縮小率が決定されます。また、ハードクリップエリアは「標準」になります。

倍率の最大値は 210.0 %、倍率の最小値は 22.5 % となります。

用紙 サイズ	0°				90°			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x - P1x	P2y - P1y						
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	24720	35733
JIS B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
JIS B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

単位：プロッターユニット

設定項目

項目番号の表記は、ESC = ESC/P、PC = PC-PR201H、PCL = PCL、HP = HP-GL と HP-GL/2、です。



補足

- CentreWare Internet Services でも同様に設定できます。

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
原稿サイズ	1	301	—	—	<p>【0】：はがき</p> <p>【3】：A3</p> <p>【4】：A4</p> <p>【5】：A5</p> <p>【14】：JIS B4</p> <p>【15】：JIS B5</p> <p>【21】：8.5×14</p> <p>【22】：8.5×13</p> <p>【23】：8.5×11</p> <p>【24】：11×17</p> <p>【99】（初期値）：用紙サイズ</p> <p>【100】：連続紙（10×12）</p> <p>【101】：連続紙（10×11）</p> <p>【102】：連続紙（15×12）</p> <p>【103】：連続紙（15×11）</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。 • PC-PR201H では、プリント保証桁は、連続紙（10×12）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11）は 136 桁 /66 行です。

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
原稿サイズ	—	—	—	101	【0】：A0 【1】：A1 【2】：A2 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【10】：JIS B0 【11】：JIS B1 【12】：JIS B2 【13】：JIS B3 【14】：JIS B4 【15】：JIS B5 【99】（初期値）：オート 【100】：用紙サイズ
用紙サイズ 「給紙トレイ」 が「自動」、ま たは「トレイ5 （手差し）」の場 合	2	302	—	—	【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：JIS B4 【15】：JIS B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17
用紙サイズ 「給紙トレイ」 が「自動」、ま たは「トレイ5 （手差し）」の場 合	—	—	—	102	【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：JIS B4 【15】：JIS B5 【99】：オート 【101】（初期値）：A サイズ

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
用紙サイズ 「給紙トレイ」 が「自動」の場 合	—	—	202	—	【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：JIS B4 【15】：JIS B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【25】：ユーザー定義用紙 【30】：8K
用紙サイズ 「給紙トレイ」 が「手差しトレ イ」の場合	—	—	203	—	【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：JIS B4 【15】：JIS B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【25】：ユーザー定義用紙
給紙トレイ	3	303	201	103	【0】：（初期値：PCL、HP-GL/2）自動 【1】：（初期値：ESC/P、PC-PR201H）トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6  補足 ・「自動」に設定した場合、同じサイズ of 用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →トレイ 4 →トレイ 6 の順に給紙されます。また、同じサイズ of 用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
座標回転	—	—	—	104	【0】（初期値）：0° 【1】：90°

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
カラーモード  補足 ・カラー機に有効な設定です。	5	304	—	—	【0】(初期値:ESC/P):カラー 【1】(初期値:PC-PR201H):モノクロ
	—	—	216	—	【0】(初期値):自動 【1】:カラー 【2】:モノクロ
	—	—	—	105	【0】(初期値):カラー 【1】:グレースケール 【2】:黒ペン
階調モード  補足 ・モノクロ機に有効な設定です。	—	—	—	105	【1】(初期値):グレースケール 【2】:黒ペン
オートレイアウト	—	—	—	106	【0】(初期値):ON 【1】:OFF
パレット優先指定	—	—	—	107	【0】(初期値):コマンド 【1】:パネル
出力部数	8	305	—	108	【1】～【250】(初期値:1):1～250部  補足 ・クライアントPCからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値になります。ただし、lpdポートから指定された部数は、変わりません。
	—	—	212	—	【1】～【999】(初期値:1):1～999部
排出先	9	306	204	109	【0】(初期値):センタートレイ(下段) 【1】:サイドトレイ(オプション) 【2】:センタートレイ(上段)(オプション) 【80】:フィニッシャートレイ(オプション) 【81】:フィニッシャー排出トレイ(オプション)
両面	12	307	—	110	【0】(初期値):なし 【1】:左右開き 【2】:上下開き
	—	—	206	—	【0】(初期値):オフ 【1】:オン
両面時のとじ方	—	—	217	—	【0】(初期値):長辺とじ 【1】:短辺とじ
用紙方向	19	314	205	—	【0】(初期値):縦 【1】:横

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
用紙位置 💡 補足 • 「原稿サイズ」で「連続紙」に設定した場合は設定できません。	20	338	—	—	【0】 (初期値) : カットシートフィーダーなし (左) 【1】 : カットシートフィーダーあり (中央) 💡 補足 • カットシートフィーダーなしの場合は、FF (改ページコマンド) を受信すると、VFU で設定された値だけ行送りをします。カットシートフィーダーありの場合は、改ページします。
	—	315	—	—	【0】 (初期値) : 左置き 【1】 : 中央置き
倍率モード	54	321	—	—	【0】 (初期値) : 固定倍率 【1】 : 任意倍率 【2】 : カット紙全面 💡 補足 • 「固定倍率」とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字可能領域が用紙サイズの印字可能領域に収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば100% (等倍) 印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字可能領域に収まるように印字されます。 • 「任意倍率」とは、「倍率」 > 「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字可能領域の左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 • カット紙全面領域が印字可能領域に印字されます。「カット紙全面」とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字可能領域に収まるよう印字されます。 • 「原稿サイズ」で連続紙が設定されている場合、「固定倍率」と「カット紙全面」は同じ印字結果となります。
任意倍率 / 縦倍率	17	312	—	—	【45】 ~ 【210】 (初期値 : 100) : 45 ~ 210 %
任意倍率 / 横倍率	18	313	—	—	
罫線	22	317	—	—	【0】 (初期値) : イメージ 【1】 : フォント 💡 補足 • 2 バイトの罫線フォントの印字方法を設定します。

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
漢字書体 💡 補足 • 拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。	13	308	—	—	【0】(初期値): 明朝 【1】: ゴシック 💡 補足 • 2バイトの半角文字もこの書体が適用されます。
	—	—	—	111	【0】(初期値): ストローク 【1】: 明朝 【2】: ゴシック 💡 補足 • 2バイトの半角文字もこの書体が適用されます。
英数字書体	14	309	—	—	【0】(初期値): ローマン 【1】: サンセリフ
	—	—	—	112	【0】(初期値): ストローク 【1】: ローマン 【2】: サンセリフ
デフォルト フォント	—	—	207	—	【0】: CG Times 【1】: CG Times Italic 【2】: CG Times Bold 【3】: CG Times Italic Bold 【4】: Univers Medium 【5】: Univers Medium Italic 【6】: Univers Bold 【7】: Univers Bold Italic 【8】: Univers Medium Condensed 【9】: Univers Medium Condensed Italic 【10】: Univers Bold Condensed 【11】: Univers Bold Condensed Italic 【12】: Antique Olive 【13】: Antique Olive Italic 【14】: Antique Olive Bold 【15】: CG Omega 【16】: CG Omega Italic 【17】: CG Omega Bold 【18】: CG Omega Bold Italic 【19】: Garamond Antiqua 【20】: Garamond Kursiv 【21】: Garamond Halbfett 【22】: Garamond Kursiv Halbfett

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
デフォルト フォント	—	—	207	—	【23】(初期値) : Courier 【24】 : Courier Italic 【25】 : Courier Bold 【26】 : Courier Bold Italic 【27】 : Letter Gothic 【28】 : Letter Gothic Italic 【29】 : Letter Gothic Bold 【30】 : Albertus Medium 【31】 : Albertus Extra Bold 【32】 : Clarendon Condensed 【33】 : Coronet 【34】 : Marigold 【35】 : Arial 【36】 : Arial Italic 【37】 : Arial Bold 【38】 : Arial Bold Italic 【39】 : Times New 【40】 : Times New Italic 【41】 : Times New Bold 【42】 : Times New Bold Italic 【43】 : Symbol 【44】 : Wingdings 【45】 : Line Printer 【46】 : Times Roman 【47】 : Times Italic 【48】 : Times Bold 【49】 : Times Bold Italic 【50】 : Helvetica 【51】 : Helvetica Oblique 【52】 : Helvetica Bold 【53】 : Helvetica Bold Oblique 【54】 : CourierPS 【55】 : CourierPS Oblique 【56】 : CourierPS Bold 【57】 : CourierPS Bold Oblique 【58】 : SymbolPS 【59】 : Palatino Roman 【60】 : Palatino Italic

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
デフォルト フォント	—	—	207	—	【61】 : Palatino Bold 【62】 : Palatino Bold Italic 【63】 : ITC Bookman Light 【64】 : ITC Bookman Light Italic 【65】 : ITC Bookman Demi 【66】 : ITC Bookman Demi Italic 【67】 : Helvetica Narrow 【68】 : Helvetica Narrow Oblique 【69】 : Helvetica Narrow Bold 【70】 : Helvetica Narrow Bold Oblique 【71】 : New Century Schoolbook Roman 【72】 : New Century Schoolbook Italic 【73】 : New Century Schoolbook Bold 【74】 : New Century Schoolbook Bold Italic 【75】 : ITC Avant Garde Book 【76】 : ITC Avant Garde Book Oblique 【77】 : ITC Avant Garde Demi 【78】 : ITC Avant Garde Demi Oblique 【79】 : ITC Zapf Chancery Medium Italic 【80】 : ITC Zapf Dingbats
デフォルトシ ンボル	—	—	208	—	【0】 (初期値) : Roman 8 【1】 : ISO 8859-1 Latin 1 【2】 : ISO 8859-2 Latin 2 【3】 : ISO 8859-9 Latin 5 【4】 : ISO 8859-10 Latin 6 【5】 : PC-8 【6】 : PC-8 DN 【7】 : PC-775 【8】 : PC-850 【9】 : PC-852 【10】 : PC-1004 (OS/2) 【11】 : PC Turkish 【12】 : Windows 3.1 Latin 1 【13】 : Windows 3.1 Latin 2 【14】 : Windows 3.1 Latin 5 【15】 : DeskTop 【16】 : PS Text

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
デフォルトシンボル	—	—	208	—	【17】: MC Text 【18】: Microsoft Publishing 【19】: Math 8 【20】: PS Math 【21】: Pi Font 【22】: Legal 【23】: ISO 4 United Kingdom 【24】: ISO 6 ASCII 【25】: ISO 11 Swedish:names 【26】: ISO 15 Italian 【27】: ISO 17 Spanish 【28】: ISO 21 German 【29】: ISO 60 Norwegian v1 【30】: ISO 69 French 【31】: Windows 3.0 Latin 1 【32】: Windows Baltic 【33】: Symbol 【34】: Wingdings 【35】: UCS-2
フォントサイズ	—	—	209	—	【400】 ~ 【5000】 (初期値: 1200): 4.00 ~ 50.00 ポイント
フォントピッチサイズ	—	—	210	—	【600】 ~ 【2400】 (初期値: 1000): 6.00 ~ 24.00 ポイント
フォント行数	—	—	211	—	【5】 ~ 【128】 (初期値: 64): 5 ~ 128 行
縦位置補正	15	310	—	113	【0】 (初期値): しない
横位置補正	16	311	—	114	【1】 ~ 【500】: -250 ~ +250 mm  補足 ・プリント位置 (またはハードクリップエリア) を設定します。
2 アップモード	21	316	—	—	【0】 (初期値): なし 【1】: 順方向 【2】: 逆方向  補足 ・「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果になります。

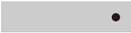
設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
漢字コード  補足 • 拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。	50	—	—	—	【0】(初期値)：エプソン 【1】：東芝
白紙排出  補足 • 拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。	51	318	—	—	【0】(初期値)：しない 【1】：する  補足 • 空白ページの白紙の排出を設定します。 • 「しない」に設定した場合、2 アッププリント、または両面プリントでは、空白ページは作成されません。 • 「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや白いオブジェクトが存在するときは、白紙が排出されます。
印字桁範囲	52	319	—	—	【0】(初期値)：標準 【1】：拡張  補足 • 右マージンの位置を拡張できます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端になります。
イメージエンハンス	53	320	213	163	【0】：OFF 【1】(初期値)：ON
文字品位	55	—	—	—	【0】(初期値)：高品位 【1】：ドラフト
縮小文字	56	—	—	—	【0】(初期値)：しない 【1】：する  補足 • 半角英数字を印字する場合、文字を縮小できます。
文字コード表	57	—	—	—	【0】(初期値)：カタカナ 【1】：拡張グラフィックス  補足 • 半角英数字を印字する場合のコード表の種類を設定します。 • 日本国内のアプリケーションを使用している場合はカタカナを、日本以外の国のアプリケーションを使用している場合は、拡張グラフィックスに設定してください。
ページ長	58	329	—	—	【0】(初期値)：11 インチ 【1】：12 インチ

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
1 インチミシ ン目スキップ	59	—	—	—	<p>【0】(初期値)：しない 【1】：する</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ページとページの間を1インチ空けることができます。 「用紙位置」で「カットシートフィーダーなし」に設定されている場合だけ設定が有効になります。
給紙位置	60	—	—	—	<p>【0】(初期値)：8.5 mm 【1】：22 mm</p>
国別文字	—	322	—	—	<p>【0】(初期値)：日本 【1】：アメリカ 【2】：イギリス 【3】：ドイツ 【4】：スウェーデン</p>
自動改行	—	323	—	—	<p>【0】：CR 【1】(初期値)：CR/LF</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> 右マージン位置を超えたときの自動改行の動作を設定します。 「CR」は印字復帰だけします。「CR/LF」は印字復帰したあと改行します。
印字指令	—	324	—	—	<p>【0】(初期値)：CR 【1】：すべて</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> 「CR」は印字指令のコマンドをCRだけ、「すべて」は印字指令のコマンドを、CR、LF、VT、FF、US、ESC a、ESC b にします。
CRの機能	61	325	—	—	<p>【0】(初期値)：復帰 【1】：復帰改行</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 8ビットドットイメージ印字コマンドの印字結果に影響します。
グラフィック ドット数	—	327	—	—	<p>【0】(初期値)：ネイティブ 【1】：コピー</p>
データサイズ	—	328	—	—	<p>【0】：7ビット 【1】(初期値)：8ビット</p>

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
HP-GL モード	—	—	—	150	【0】（初期値）：HP-GL 【1】：HP-GL/2  補足 <ul style="list-style-type: none"> • IW、OW、UC コマンドに影響します。 • BP コマンドを含まない HP-GL/2 コマンドを印字する場合は「HP-GL/2」に設定してください。
ハードクリップ	—	—	—	151	【0】：標準 【2】（初期値）：用紙
排出コマンド	—	—	—	152 (SP)	【0】：OFF 【1】：ON  補足 <ul style="list-style-type: none"> • 描画の終了を示すコマンドを設定します。 • ここで指定したコマンドを受信すると描画を終了し、用紙が排出されます。 • 初期値は、SP0 は「ON」、SP0 以外のコマンドは「OFF」に設定されています。 • 複数のコマンドが指定された場合は、どれか1つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。
	—	—	—	153 (SP0)	
	—	—	—	154 (NR)	
	—	—	—	155 (FR)	
	—	—	—	156 (PG)	
	—	—	—	157 (AF)	
	—	—	—	158 (AH)	
スケール	—	—	—	159	【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
スケールモード	—	—	—	160	【0】（初期値）：用紙サイズ 【1】：オブジェクト領域
エリア判定モード	—	—	—	161	【0】（初期値）：自動 【1】：PS 【2】：IW 【3】：IP 【4】：Adapted
ペーパーマージン	—	—	—	162	【0】～【99】（初期値：0）：0～99 mm
拡張子指定	62	330	—	—	【0】（初期値）：無効 【1】：有効  補足 <ul style="list-style-type: none"> • 通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン = 3BH）を指定しています。ホストコンピュータで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
拡張子	63	331	—	—	<p>【&%】（初期値）：0x21 ~ 0x7e</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> テキストコードで制御できるようにする場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。
フォーム合成  補足 <ul style="list-style-type: none"> 拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 	64	332	—	—	<p>【0】（初期値）：しない</p> <p>【1】 ~ 【64】：No.1 ~ No.64</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> フォームを指定したあと、フォームが削除された場合でも、そのフォーム名が表示されています。この場合はフォームが合成されません。
ホチキスとめ	66	333	—	164	<p>【0】（初期値）：しない</p> <p>【1】：左上 1 か所</p> <p>【2】：上辺 2 か所</p> <p>【3】：右上 1 か所</p> <p>【4】：左辺 2 か所</p> <p>【5】：右辺 2 か所</p> <p>【6】：左下 1 か所</p> <p>【7】：下辺 2 か所</p> <p>【8】：右下 1 か所</p>
手差し給紙の一時停止	67	335	—	165	<p>【0】：（初期値） しない</p> <p>【1】：する</p>
フォーム種類	68	—	—	—	<p>【0】（初期値）：ESC/P</p> <p>【1】：ART IV</p>
	—	336	—	—	<p>【0】（初期値）：PC-PR201H</p> <p>【1】：ART IV</p>
パンチ	69	334	—	166	<p>【0】（初期値）：しない</p> <p>【1】：上辺</p> <p>【2】：下辺</p> <p>【3】：左辺</p> <p>【4】：右辺</p>
パンチ穴数	70	337	—	167	<p>【0】（初期値）：2 穴</p> <p>【1】：3 穴</p> <p>【2】：4 穴</p>
文字コード	71	—	—	—	<p>【0】（初期値）：JIS</p> <p>【1】：ShiftJIS</p>

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
バイナリーデータ (16 進表記でコマンドを入力する) の指定文字列	72	—	—	—	【0】 (初期値) : OFF 【1】 : &\$%\$ 【2】 : \$?!#
0 の字体	73	326	—	—	【0】 (初期値) : 0 【1】 : ∅
HexDump	—	—	214	—	【0】 (初期値) : OFF 【1】 : ON
薄墨印刷	—	—	215	—	【0】 (初期値) : OFF 【1】 : ON
行末処理	—	—	218	—	【0】 (初期値) : OFF 【1】 : LF を後につける 【2】 : CR を前につける 【3】 : CR-xx 💡 補足 • 「CR-xx」は、CR のとき LF を後につけ、LF と FF のとき CR を前につけます。
ユーザー定義用紙サイズの初期値	—	—	219 (短辺)	—	【0】 ~ 【999】 (初期値 : 2100) : 0 ~ 999.9 mm
	—	—	220 (長辺)	—	【0】 ~ 【999】 (初期値 : 2970) : 0 ~ 999.9 mm
有効出力部数	74	339	221	115	【0】 (初期値 : HP-GL/2) : プロトコル指定 【1】 : パネル 【2】 (初期値 : ESC/P、PC-PR201H、PCL) : コマンド
バーコードモード	75	—	—	—	【0】 (初期値) : 通常モード 【1】 : バーコードモード 💡 補足 • バーコードモードに設定すると、バーコードの輪郭がはっきりとプリントされます。
対象機	—	—	—	169	【0】 (初期値) : HP750C 【1】 : FX4036
ペン幅	—	—	—	800 ~ 815	No.00 の項目番号が 800 です。 【0】 ~ 【255】 (初期値 : 3) : 0 ~ 25.5 mm

設定項目	項目番号				設定値
	ESC	PC	PCL	HP	
ペン終端形状	—	—	—	850 ～ 865	No.00 の項目番号が 850 です。 【0】（初期値）：切断  【1】：丸め  【2】：矩形 
ペン接続形状	—	—	—	900 ～ 915	No.00 の項目番号が 900 です。 【0】（初期値）：なし  【1】：交差  【2】：丸め  【3】：切断 
ペンカラー	—	—	—	950 ～ 965	No.00 の項目番号が 950 です。 【0】～【255】：0～255（カラー）  補足 • カラー機に有効な設定です。
ペン濃度				950 ～ 965	No.00 の項目番号が 950 です。 【0】～【100】：0～100（濃度）  補足 • モノクロ機に有効な設定です。

ダイレクトプリント

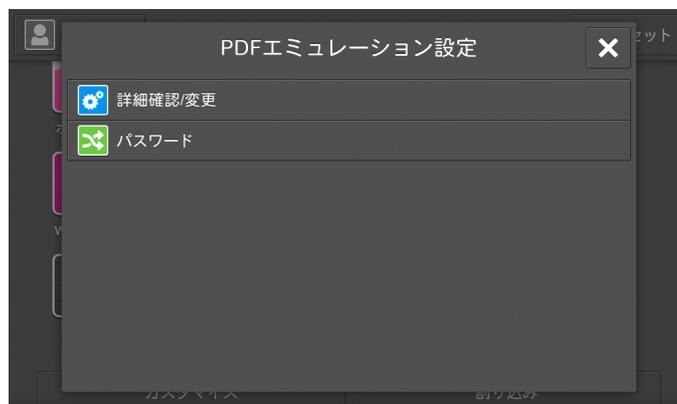
ファイルをプリンタードライバーではなく、直接 lpr コマンドなどを使用してプリントする機能です。PDF ダイレクトプリントでは、Adobe 純正の PDF ダイレクトプリントと弊社製の PDF ダイレクトプリント（PDF Bridge）の 2 種類があります。

💡 補足

- Adobe 純正の PDF ダイレクトプリントを使用するには、Adobe® PostScript® 3™ キットが必要です。
- lpr コマンドを使用するときは、[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [LPD] で、[LPD-ポート] を [起動] にしてください。

モードメニュー画面

ホーム画面の [プリンターモード] で、ダイレクトプリントモードを選択すると、表示されます。



💡 補足

- PDF エミュレーションモードは、CentreWare Internet Services でも同様に設定できます。

■ 詳細確認 / 変更

[項目番号] に機能の項目番号を入力すると、現在の設定値が表示されます。

設定値を変更するには、[変更値] に変更する値を入力し、[決定] をタップします。

弊社のソフトウェア、ContentsBridge Utility を使用しないで PDF ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

💡 補足

- ContentsBridge Utility を使用して PDF ファイルをプリントする場合は、『ソフトウェア / 製品マニュアル DVD』の [サポートツール / マニュアル] > [メディア情報] を参照してください。
- Contents Bridge Utility を使用する場合、「プリント処理モード」のみ有効になります。

🔍 参照

- 項目番号は、「設定項目」(P.30) を参照してください。

■ パスワード

パスワードを設定しておくことで、パスワードによるセキュリティが設定された PDF ファイルをプリントできます。

💡 補足

- パスワードは、半角英数字、または記号で 32 文字以内に設定してください。
- PDF ファイルのセキュリティの設定によっては、プリントできないことがあります。

設定項目

設定項目	項目番号		設定値
	PDF	DocuWorks	
出力部数	401	501	<p>【1】～【999】（初期値：1）：1～999枚</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • lpr コマンドを使用してプリントする場合、出力部数の指定は lpr コマンドで行うため、ここでの設定は無効になります。
両面	402	502	<p>【0】（初期値）：しない</p> <p>【1】：長辺とじ</p> <p>【2】：短辺とじ</p>
印刷モード	403	503	<p>【0】（初期値）：標準</p> <p>【1】：高速</p> <p>【2】：高画質</p>
ソート	404	504	<p>複数部数を、1部ごとにソート（1、2、3...1、2、3...）します。</p> <p>【0】（初期値）：しない</p> <p>【1】：する</p>
レイアウト	405	505	<p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • この項目は、「プリント処理モード」で「PDF Bridge」に設定した場合だけ、設定が有効になります。 <p>【0】（初期値）：自動倍率</p> <p>【1】：カタログ（製本）</p> <p>【2】：2アップ</p> <p>【3】：4アップ</p> <p>【4】：100%（等倍）</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「カタログ（製本）」は、PDF ダイレクトプリントの場合に設定できません。 • ページ構成によっては、カタログ（製本）プリントができない場合があります。この場合「自動倍率」でプリントされます。
用紙サイズ	406	506	<p>【0】（初期値）：自動</p> <p>【1】：A4</p>
カラーモード	407	507	<p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • カラー機に有効な設定です。 <p>【0】（初期値）：自動</p> <p>【1】：白黒</p>
プリント処理モード	408	—	<p>【0】（初期値）：PDF Bridge</p> <p>【1】：PS</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「PS」に設定した場合は、「レイアウト」の設定は無効になります。

外部アクセス

本機に組み込まれたブラウザからネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり、表示したりできる機能です。

- 外部サービスにアクセスして、Web アプリケーション画面を表示する
- スキャン文書を Web アプリケーション上のフォルダーに格納する
- 外部のサーバーに格納してあるファイルをプリントする

💡 補足

- 表示できる Web アプリケーションは、連携済みのものだけです。インターネットのホームページなどにはアクセスできません。

[外部アクセス] をタップすると、表示されます。



接続先の登録

1. 機械管理者モードにログインします。
2. [設定] > [アプリ設定] > [外部アクセス設定] > [接続先の登録] をタップします。



3. 登録するサーバー番号を選択します。



4. サーバーの URL を入力し、[OK] をタップします。

💡 補足

- 外部アクセス用 Web ブラウザーのバージョンを特定した接続をする場合は、プロトコルの種類 (http や https) とコロン間にバージョンを指定します。たとえば、V4 で接続するときは「http-v4://www.example.com」と入力します。
- Web ブラウザーのバージョンを URL に指定して接続すると、[外部アクセスバージョンの選択] の設定は無効になります。

5. 必要に応じて、次の項目を設定します。



接続先名

接続先の表示名を設定します。

URL

サーバーの URL が表示されます。

説明

接続先の説明を設定します。

接続用ユーザー ID の使用

外部サービスにアクセスするためのユーザー ID を使用するかどうかを設定します。

💡 補足

- [使用しない] に設定しても、アクセス時にユーザー ID とパスワードの入力が必要になることがあります。
- [設定] > [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] > [認証の設定] > [認証方式の設定] が [外部認証] の場合、[使用しない] を選択すると、本機で認証されているユーザー情報を使用して、外部サービスにアクセスされます。
- 外部サービスにアクセスしたとき、認証の確認画面を表示するかどうかは、[設定] > [アプリ設定] > [外部アクセス設定] > [その他の設定] > [認証情報送信時の確認画面] で設定します。

接続用ユーザー ID

外部サービスに認証するためのユーザー ID を設定します。

補足

- 外部サービスの種類によっては、[接続用ユーザー ID] を設定しても、設定が無効になることがあります。使用する外部サービスの設定を確認してください。

接続用ユーザー ID のパスワード

認証に使用するパスワードを設定します。

本体 / 認証情報の通知

本機を特定するための情報や、利用するユーザーの認証情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

補足

- これらの情報は、接続する外部サービスによって使用するかどうか判断されるため、通常、操作パネルで設定することはありません。

ユーザー権限情報の通知

利用するユーザーの権限情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

機能コード

他機との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

サーバー証明書を検証

外部サーバー（ASP）との接続時、Windows の Web ブラウザーと同様に、サーバー証明書を検証する設定にすると、フィッシングを抑止できます。

サーバー証明書の検証には、サーバー証明書を発行しているルート証明機関のルート証明書（CA 証明書）を使用します。

補足

- CA 証明書ファイルの対応形式は次のとおりです。
 - DER encoded binary X.509 形式 (.CER)
 - Base64 encoded X.509 形式 (.CER)
 - Cryptographic Message Syntax Standard - PKCS #7 証明書形式 (.P7B)

暗号化と署名機能

証明書

暗号化と署名機能を利用するには、証明書が必要です。

証明書の作成 / 削除、インポート / エクスポート、有効化は、CentreWare Internet Services で行います。



- 手順については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

証明書の種類

- CentreWare Internet Services を使って作成した自己証明書
- 認証局 (CA) によって署名された証明書

インポートできる電子証明書の規格

- X.509 (DER/PEM 形式)
- PKCS#12 (DER/PEM 形式)
- PKCS#7 (DER/PEM 形式)

■ 使用できるデバイス証明書

○: 使用できる、 -: 使用できない

暗号化と署名機能	自己証明書	ほかの認証局で作成された証明書
SSL/TLS サーバー	○	○
SSL/TLS クライアント	-	○
IPsec	-	○*
S/MIME	-	○
スキャン文書	○	○

* : [IKE 認証方式] が [デジタル署名による認証] の場合に使用します。

■ 設定できる証明書の条件

○: 使用できる、 -: 使用できない

暗号化と署名機能	鍵用途		拡張鍵用途			メールアドレス
	鍵暗号	デジタル署名	サーバー認証	クライアント認証	電子メール保護	
SSL/TLS サーバー	○	○	○	-	-	-
SSL/TLS クライアント	○	○	-	○	-	-
IPsec	-	○	-	-	-	-
S/MIME	○	○	-	-	○	○
スキャン文書	○	○	-	-	-	-

暗号化と署名機能

■ SSL/TLS サーバー

クライアント PC から本機への HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルが使用されます。IPP プロトコルを使用してプリントするときも、SSL で暗号化されます。

■ SSL/TLS クライアント

本機から外部サーバーへの HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルが使用されます。

通常、自己証明書をインポートする必要はありませんが、外部サーバーが SSL クライアント証明を要求する設定の場合は、ほかの認証局で作成された証明書をインポートできます。

また、外部サーバーを検証する場合は、その証明書パスに含まれる上位の認証局の証明書をインポートします。

■ IPsec

暗号化には、IPsec プロトコルが使用されます。

アプリケーションに関係なく、IP レベルで暗号化されます。

[設定] > [ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] > [IPsec 設定] > [IKE 認証方式] の状態により、IPsec 証明書の要 / 不要が異なります。

- デジタル署名による認証
ほかの認証局で作成された証明書をインポートします。
- 事前共有鍵による認証
必要ありません。

また、通信先を検証する場合は、その証明書パスに含まれる上位の認証局の証明書をインポートします。

■ S/MIME

メール、インターネットファクスの暗号化には、S/MIME が使用されます。

S/MIME 証明書が必要です。

暗号化通信には、送信先の個人証明書とデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。

[設定] > [アプリ設定] > [スキャン送信設定] > [メール送信動作制御] > [データサイズ単位で分割] はできません。

補足

- S/MIME の個人証明書、およびデバイス証明書の [証明書] 画面の [詳細] タブで、次のことが設定されていることを確認してください。
 - メールアドレスが設定されている
 - RSA 方式で、V3 拡張 (KeyUsage) がある場合
[キー使用法] に「デジタル署名」と「鍵暗号のビット」が設定されている
 - ECC 方式で、V3 拡張 (KeyUsage) がある場合
[キー使用法] に「デジタル署名」と「鍵交換のビット」が設定されている

■ スキャン文書

デジタル署名できるスキャン文書は、PDF、DocuWorks です。

ほかの認証局で作成された証明書をインポートします。

暗号化は、スキャン時の [出力ファイル形式] で設定します。



設定復元ツール

本機のストレージの故障によるデータ消失に備えて、ネットワークで接続されたコンピューターに、設定データなどをバックアップする機能です。

設定復元ツールは、弊社公式サイトからダウンロードしてください。

https://www.fujixerox.co.jp/download/apeosport/4_c7780/win8_64/restoretool

ライセンス

本製品は、第三者が権利を有するオープンソースソフトウェア（以降、OSS と呼びます）が含まれています。各 OSS の適用ライセンス、著作権表示および個別のライセンス条件については、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスク内の [サポートツール / マニュアル] > [製品マニュアル] の「ライセンス」を参照してください。

本製品は、GNU Library General Public License 2.0 など、OSS ライセンスに基づき許諾されるソフトウェアを含んでいます。

OSS ライセンスに基づき、対象となるソフトウェアのソースコードの入手を希望される方は、以下のサイトより入手が可能です。

https://www.fujixerox.co.jp/etc/oss/mfp/ap_c7070/v1_0

